

まちづくり通信 第108号

3年振りの

鳥栖山笠が開催されました

7月23日(土)24日(日)、3年振りとなった鳥栖山笠が開催されました。当日、山車を担ぐ参加者や関係者には、事前に抗原検査を行うなどのコロナ対策もしっかりととられ、待ちに待った山笠の

開催に各町区の気合いや意気込みを強く感じられました。世の中の嫌な流れも吹き飛ばしてくれそうなほど勇壮な姿は、とても感動的でした。当日は橋本市長や天野教育長も山車に乗られ、参加された皆さんも盛り上がり、「これぞ鳥栖の夏」を感じさせる2日間となりました。



6町区の山が並ぶ姿は圧巻



三番山 中央区「弁慶号」



二番山 本町区「飛びたつ鷹」

青少年育成会事業

夏休み子ども教室を開催しました



7.28
陶芸教室
(1~2年生)



7.29
陶芸教室
(3~6年生)



8.5
化石教室



木の葉の化石

みんな集中して作ったので、時間内に立派なオリジナルマグカップを完成させることができました。焼き上がりが楽しみです！

石を割るのが大変だったけど、みんな夢中でカンカンしていました。

本鳥栖町

輪くぐり願成就

7月31日8時より、宮総代や生産組合の方が集まり、直径1.8mほどの茅の輪を作って水影天神社に奉納しました。

翌8月1日、神事の後に地元の人たちが素足になり、宮司から榊と水でみそぎを受けて身を清め、茅の輪をくぐり社殿を3周まわることで、無病息災を祈願しました。



長崎街道 第4歩

爽やか歴史さんぽ

・本町・本鳥栖町



鳥栖北地区まちづくり推進協議会では、10月16日(日)に開催予定の『長崎街道まつり』に合わせて「秋の爽やか北さんぽ」と題し、親子で楽しめるウォークラリーを企画中です。より楽しんでいただけるように、長崎街道の周辺をひと足早く紙面で旅してみましょう!

長崎街道とは江戸時代に長崎と小倉を結んだもので、別名シュガーロードとも呼ばれ、宿場町などがあった場所です。鳥栖地域の田代・轟木宿にもオランダ使節のカピタン(商館長)行列や、任務のため往来する長崎奉行・幕府役人やあるいは商人などが盛んに往来・宿泊していました。

鳥栖八坂神社

瓜生野町祇園神社(現鳥栖八坂神社)は縁起によれば、正安元年(1299)鎌倉時代後期、山城国(京都)東山八坂の祇園宮から勧請し、天台宗の宮司坊がいたと伝えられています。江戸時代初め頃、街道の付け替えに伴い古野町から現在地に移転し、社殿天井裏の棟札には寛文12年(1673)の年号が見られます。この頃は田代祇園宮との間で神輿が出て、流鏝馬などの祇園会がにぎやかに執り行われていました。



現在の「鳥栖山笠」は大正年間にはじめられたものです。境内には、石造物が数多くありますが、最も古いのが天和2年(1682)銘の参道脇の灯笼であり、境内南には天明2年(1782)の多重石塔(宝篋印塔)もあります。また境内には、クスノキ(樹齢320年)・ケヤキ等が神社の森をつくり、町のオアシスとなっています。明治期になり「神仏分離令」により、八坂神社となり、祭神も素戔嗚命となっています。



水影天神社

外町追分石を通り抜けた長崎街道は、ほぼ南西方面に向かい、雨子川と大木川を渡ります。大木川を渡り南へしばらく歩くと、東に水影天神社(本鳥栖老松宮)があり、「菅原道真がここに住んでいる家臣三澄時遠に、水面に写して描いた自画像を形見として与えた」という伝説が残っています。

瓜生野エビス

売薬業が軒を連ねた瓜生野町のエビス像が祀られたのは江戸時代と思われませんが、詳しい年代は分かっていません。石組の台座は文化14年(1817)の田代上町エビスのものによく似ていますが、年号は刻まれていません。現在のエビス・大黒は、後代に設置されたものです。肥前で、エビスと大黒が並んで祀られることは珍しいといわれています。毎年1月10日には注連縄で飾り、鳥栖八坂神社の宮司による十日エビスのお祭りが行われます。



※瓜生野町とは、現在の本町・秋葉町にあたります。長崎街道の轟木宿と田代宿の中間にあたり、商屋が立ち並び、人の往来の賑やかな場所でした。

